

高蔵寺ニュータウン 空き家リノベーションアイデアコンペ

つなぐ いえ

高蔵寺ニュータウンも他のニュータウンの例にもれず、高齢化、人口減少の問題を抱えている。同時に入居開始から50年近くが経ち住宅の入れ替わりの時期に差し掛かるなか、現代の居住ニーズに合わない個室型間取りが大量の住宅ストックの継承を妨げる原因となっている。ここでは、全国的に同様の問題を多く抱える木造住宅を対象とし、ニュータウンの次代を担う世代がこの土地に積極的に根ざしていくための拠点として街と住宅、住人と地域、今と未来を「つなぐ」いえを提案する。

- 対象とする住宅
 - 岩成台
 - 木造2階建(築37年)
 - 1F: 91.48㎡
 - 2F: 56.70㎡
- 想定する家族構成
 - 夫婦(30代前半)+子供2人(共に小学生)
 - 主人は高蔵寺ニュータウン育ちで、定年を間近に控えた両親も近所に居住
 - 将来的な同居も想定している



○「場」をつなぐ

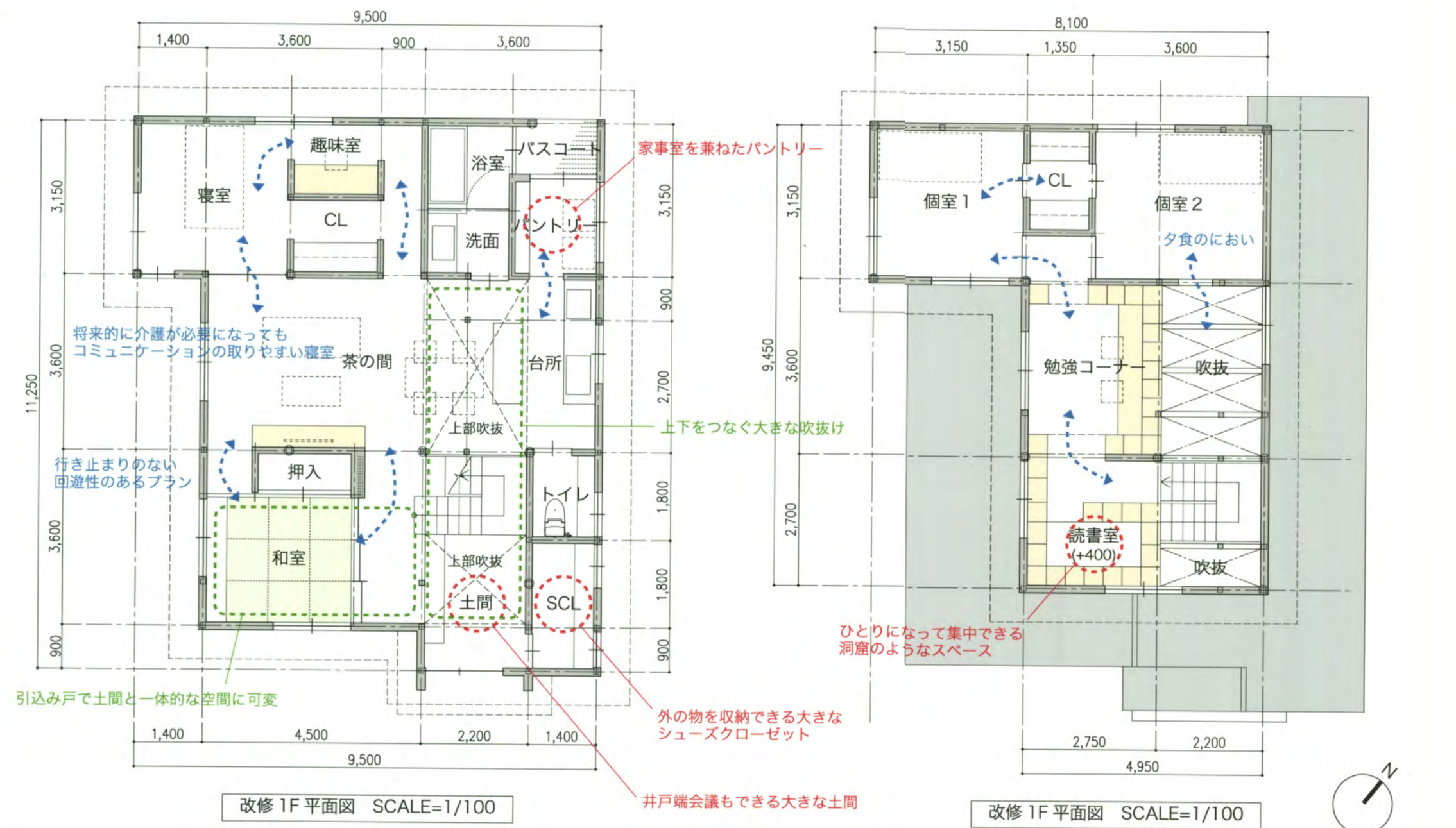
現状の典型的な完全個室型の間取りにおいて、居場所は個室かテレビの居間に限定されてしまう。ここでは様々な活動を許容するスペースを回遊性を持ってつなげる事で、家族の活動が住宅全体に広がる計画としている。

○「人」をつなぐ

それぞれの場がゆるやかにつながり、気配を感じられる空間とすることで、昨今希薄になったと云われる家族間、またはそこに集まる友人同士のコミュニケーションを連続的に誘発していく。

○「記憶」をつなぐ

高蔵寺ニュータウンは約半世紀のわたる歴史を築いており、その街並は地域住民の記憶ともいえる。典型的な木造住宅としての記憶を次代に継承するため外部にはほとんど手を加えない。



■土間を見る
広い土間空間は、和室と一体的につながり緑側の様な空間として機能する。また、自転車等のメンテナンス等、趣味作業ができる場所にもなり、玄関でありながら様々なアクティビティを許容する。

■勉強コーナーから読書室を見る
2階は家族のための資料室として、連なる本棚が勉強スペースや読書スペースをつくり出している。吹抜けに面した本棚は集中するための壁として機能しながらも、空間相互の気配を伝える役割を果たす。



■勉強コーナーを見る
本棚は正面方向には抜けているが、棚板がルーバーの役割を果たし下階からは直接姿を見せないようにする事で、集中の場としてのプライバシーを確保している。

■2F個室2より吹き抜けを見る
吹き抜けに面した開口から1階の様子を伺うだけでなく、換気等、空気の動きをコントロールする機能も持つ。

□平面計画
細かく仕切られた現状壁の多くを変更する事で部屋同士が直接つながった、通路のない、回遊性のある空間構成としている。移動のしやすさも当然の事ながら、各室の気配が伝わりやすい平面計画とすることで積極的な家族のサポートを促す。1階寝室、または和室は将来、夫の親が同居、介護が必要となった場合でも対応しやすいよう、茶の間に対してより積極的につながる構成となっている。また、壁を最小限にし、各空間を積極的につながる事で住宅全体の熱環境を均質化し、熱的なバリアフリーを目指す。

□概算工事費

建築工事	6,000,000円
電気工事	1,500,000円
設備工事	2,500,000円
解体工事	1,000,000円
合計	11,000,000円

※外構、耐震補強費は含まない

